

# 東京白楊だより

第25号  
平成14.9.1  
(2002年)

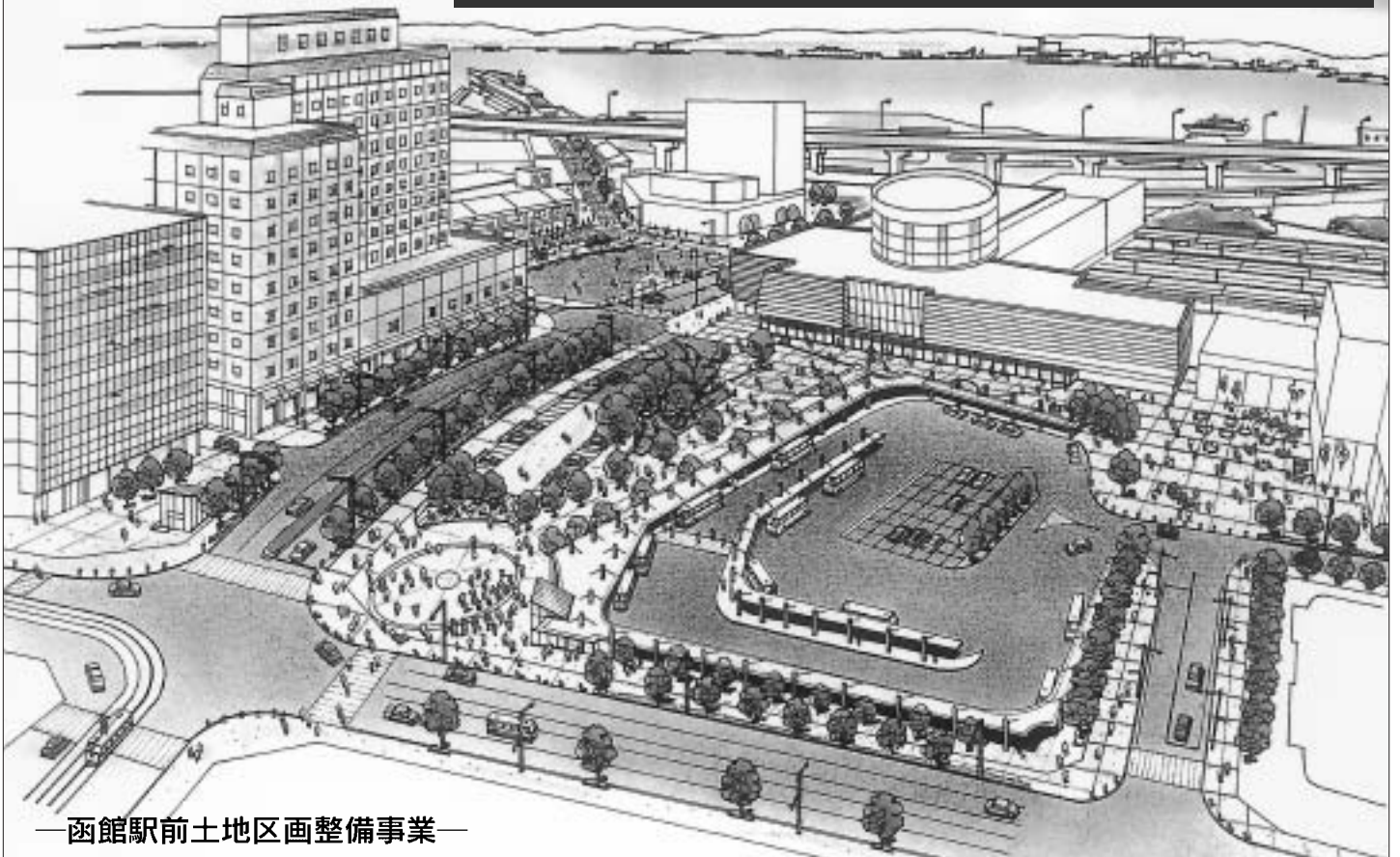


白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校  
函館中部高等学校

ホームページアドレス <http://www2.hotweb.or.jp/hakuyou/>

## 函館の新しいシンボルゾーン駅前広場完成イメージ



—函館駅前土地区画整備事業—

おもいやり



白楊ヶ丘同窓会東京支部長

杉田 博子

54期(昭和27年卒)

いつの世も他人へのおもいやりは大事である。相手の事を考えれば喧嘩などない筈が、いつもどこかで争いが絶えない。国と国、国会では与党と野党。毎日のように報道される暗い事件もすべておもいやりのない心が故で残念なことである。この度のサッカーW杯では日本中を沸き上がらせたあのフィーバー振り。サッカーを通して心が一つになり勝っても負けても試合後にお互いの健闘をたたえ合つ姿が随所に見られた。このおもいやりの心こそ世界平和の糸口になってほしいと実感した。「覆水盆に返らず」一度こぼれた水は元の盆には戻らないということわざのように、一度口から出た言葉は取り消すことは出来ない。だから相手をおもいやり、傷つけるようなことは言ってはいけないと思う。人生たかが何十年、おもいやりを大切に楽しく生きようではありませんか。「お先祖が品行方正だったから今生の自分が倅せに暮らしていられる。それに感謝して自分も悪事に走らず良い事をして居れば必ず子孫が幸福な生活が出来る」という法話を聞いたことがある。私はその言葉をいつも思い出す。可愛い孫達やその子孫が倅せに暮らせるように精進したいものである。

# 「新しい函館と中部高校」

函館中部高等学校長 宮下 勤



同窓生の皆様には、日頃から本校の教育活動に、ご理解、ご協力いただきまして、心から感謝申し上げます。函中から受け継がれた伝統ある校風を大切にしつつも、進取の気概を重視した中部高校らしい教育活動を継続することができそうです。同窓会の皆さんの温かいご支援のためものと思っております。

さて、今年も二四〇名の新入生を迎え、新年度がスタートいたしました。早いもので半年が経過いたしました。高体連の大会も一段落し、文化部では将棋部、放送部が、運動部ではバスケットボール部の男女、バドミントン部、陸上部、弓道部、水泳部など、多くの生徒が全道大会へと駒を進めました。全国大会には水泳部、放送部、コンピュータ部が出場します。高野連の夏の大会も、代表決定戦で有斗高校に破れはしたものの、中部高校生らしい活躍としたプレーは、これからの活躍を大いに期待させるものがありました。また、学級減による生徒数の減少に大き

な影響を受けながらも、進学実績は着実に成果をあげており、本校の文武両道の校風は、脈々と受け継がれていることを実感しております。

さて、学校週五日制による土曜休業日も始まりました。本校では、保護者の期待に応えるため、教職員の総意で、いち早く、土曜日講習をスタートさせました。多くの私立高校が今まで通り土曜日に授業をしていることもあり、全国的に様々な対応が試みられておりますが、一方では、「ゆとり教育」の重要性の声もあり、土曜日を有効に活用できるかどうかは、教師と生徒が目的意識をいかに共有できるかが、重要な鍵になるものと考えております。

今年、高校教育界にとっては、大きな変革の年となります。「学校評議員」制度がスタートし、さらにインターンシップ（就業体験）の推進を図るための会議など、保護者や地域社会の方々と共に学校運営そのものを考えるという新しい制度が導入されました。このことは、学校の独自性が発揮できる反面、その責任が強く求められることでもあります。現状を総合的に分析し、新しい制度や取組をいかに活用するのか、校長として、広い視野で学校経営を見つめ直す良い機会でもあると思っております。

ここ函館市は、安政年間、いち早く海外に門戸を開き、北海道文化発祥の地として発展いたしました。今年は大正十一年に市制を施行してから八十周年を迎えます。記念式典や記念花火大会など多くの行事が開かれますが、すでに「大門再生」「二」や「塩ラーメンサミット」なども開かれ、大門地区を中心に例年になく盛り上がりを見せております。

しかし、進取の気概に燃え教育を重視した風潮は、伝統のある多くの私立高校や公立高校を設けましたが、現在では、公立高校の再編成の問題、さらに、北海道大学水産学部の移転問題や北海道教育大学の教員養成過程の廃止案などが浮上するなど、新しい函館再生のための大きなうねりの時を迎えているようです。

さて、人間は四十代を過ぎる頃から、物忘れが始まりますが、この傾向が進めば進むほど、何故か、過ぎ去った日々を昨日のように思いだすようになります。この白楊ヶ丘で過ぎた青春の日々は、いつまでも皆さんの脳裏から消えることはないでしょう。たとえ、年齢や学んだ校舎が違っても、世代を越え、時を越えて、同じ仲間として思い出に浸れるのは、同窓生だけに与えられた特権です。是非、これから同窓会を大切にしていきたいと思います。

同窓生の皆様のご健勝と同窓会のお祈り申し上げます。心からお祈り申し上げます。

## 函中パソコン部、コンクールで優秀賞

### 伝統的建造物HPで道案内

まちの魅力をインターネット上で競う第八回マイタウンマップ・コンクール（実行委主催）の優秀賞に、函館中部高校パソコン研究部のホームページ（HP）が選ばれた。同部は函館の西部地区の伝統的建造物など約八十軒を訪れ、建物の由来や歴史を写真と地図で紹介した。同コンクールでは、全国の学校や企業、個人などの応募作品八百十二点の中から三十一点が入賞。道内では同校だけだった。

作品は三年生だった原井彰弘部長と田中秀和さんが制作したHP「わがマチ函館」。原井さんは公立はこたて未来大学に進学、田中さんは中国へ留学が決まり、同部顧問の教諭に勧められて出品した。

函館の歴史と風土が感じられる西部地区の坂と建物に着眼。HPの一つは「新・函館山の坂」と題し、伝統的建造物の幼稚園や企業、個人の住宅などを紹介。保存してある貴重な資料などのこぼれ話、「外観はモダンでヒノキを使うなどしっかりとっている」といった建物の雰囲気も伝えられた。

函館駅前的大门地区の店やクリスマスフェアの店やクリスマスフェアの写真なども盛り込んだ。特に情報収集に努力と時間を割いた点が評価された。



田中君

原井君

# 白楊ヶ丘同窓会東京支部 第25回親睦大会



来賓の方々

65期(昭和38年卒) 菅原 大作  
副支部長

“心のオアシス東京支部を活力ある集いに”をテーマに、白楊ヶ丘同窓会東京支部の平成13年度「第25回親睦大会」が、10月27日(土)午後5時より、東京・港区北青山の「青山ダイヤモンドホール」で、来賓及び同窓生など約190人が参加して行われた。

今回の特別企画は、懇親会の前、函館在住の画家・佐渡谷安津雄氏(64期・昭和37年卒業)が、「函館の歴史に息づく生命、新世紀へのメッセージ」と題して講演を行った。

佐渡谷氏は、昭和18年、函館生まれ。北海道学芸大学函館分校中退。画材店経営のかたわら、美術教室、画廊を開設して美術普及を図る一方、函館市民の多様な文化活動と積極的にいかかりを持ち、市民創作の「函館野外劇」に創設期より参加。また、国際交流を通じた文化活動の可能性にも着目してフランスや中国との文化交流にも積極的に参画されている。現在、画家として、札幌、函館、東京などで積極的に個展を行っているほか、函館日仏協会副会長、函館日中文化交流をすすめる会会長など、幅広い文化活動をされている。

講演に先立って、佐渡谷氏と同期の佐古則興氏が、「私自身、函館を離れて四十年になるが、テレビに函館の風景などが映っていると見入ってしまう。同時に幸せな気持ちになり、この思いを友人、知人たちにも教えたくなってしまう。

「中部高校時代に、たくさんの仲間ができ、素晴らしい先生に出会えたことで今日の自分がある。入学の動機は、受験ではなく体を鍛えたいと体操部に入った。顧問の溝江先生は、厳格で大変しこかれた。しこかれればなしというのは許せなかったので、ある時大喧嘩をして退部した。もっとも、美人の先輩二人が卒業して、体操部にいる意味がなくなったというのが本当の理由。



佐渡谷安津雄氏

その後、家業が画材屋だったことと、美術部門で文部大臣賞を受賞した田村百合子さんという同期の天才少女に出会ったことが絵の勉強を始めるきっかけになった。

高校卒業後も、絵の勉強を続けたいが、家業を継ぐために断念した。そして、文化に携わる人々の支援活動を行ってきたが、その後、再び絵を描くようになった。

現在、函館日仏協会副会長をしていながら、私にとってフランスとの出会いは大きな意味を持っている。今から八年前の日仏協会創立十周年の時に、函館とフランスのかかわり

こうした不思議な魅力が函館にはある。函館で青春時代を過ごし、故郷・函館を誇りに思っている方々は多いと思う。本日は、画家としての活動のほか、多くの文化活動にも携わっておられる佐渡谷氏に、最近の函館の姿を存分に語っていただき

たい」と、佐渡谷氏を紹介した。

「中部高校時代に、たくさんの仲間ができ、素晴らしい先生に出会えたことで今日の自分がある。入学の動機は、受験ではなく体を鍛えたいと体操部に入った。顧問の溝江先生は、厳格で大変しこかれた。しこかれればなしというのは許せなかったので、ある時大喧嘩をして退部した。もっとも、美人の先輩二人が卒業して、体操部にいる意味がなくなったというのが本当の理由。



講演する佐渡谷安津雄氏

一八五四(安政元)年、ペリー艦隊が函館に來航した。この時、寺町にある日蓮宗の實行寺(じつぎょうじ)が宿舎になった。

翌一八五五年六月七日、フランスのインドシナ艦隊が入港。この

について、函館とフランスの交流が始まった当時のフランスの新聞記事を元に一冊にまとめた。その中に、函館八幡様のお祭りでは大きな山車が七台、八幡宮から元町の北海道庁函館支庁舎まで三日三晩練り歩く壮大な催しが絵入りで記載されている。また、隔年に行われた七夕祭りでは、各町や商店などが工夫を凝らした行灯を作った。これらは今の函館に伝えられていない。それは幕府の影響が強かった函館の特性と、五稜郭戦争で破れた幕府の財産をすべて抹殺する政治的な意味合いが強かったと思われるが、フランスと最初に出会った町が函館だった。

時もペリー艦隊と同じ実行寺を静養所にし、医者も派遣した。

一八五八年に、日露通商条約が締結され、十一月実行寺にロシア領事館が開設された。

日蓮宗のお寺でありながら、実行寺は日本で初の写真撮影、ヨロツバ音楽の演奏、西洋医学(病院)による診療などが行われている。

また、今から三千年前にキリスト教が誕生したが、一〇五〇年頃に東西ローマが対立して、カトリックとギリシア正教に分離し、その対立はずっと続いている。プロテスタントは宗教改革でカトリックから分かれた。これら三つの宗派、アメリカ人のプロテスタント、フランス人のカトリック、ロシア人のギリシア正教を函館の実行寺にそれぞれ持ち込み、その後これらが日本中に波及して行くきっかけになった。

函館はその歴史の中で様々なものを受け入れ、それらを調和させることができる大きな可能性を秘めた都市といっても過言ではない。



杉田博子 支部長



二上前支部長の音頭で乾杯

赤十字精神であり、これを日本に伝えた初めての人である。函館は赤十字精神発祥の地として位置づけられている。

幕軍が破れ、市内に死体が多数放置されていたが、賊軍だからとかなかなか片づけようとしなかった。しかし、死ねば官軍賊軍の区別はないという博愛精神から、俠客の柳川熊吉が死体を一か所に集めて葬った。その後、この地に、当時の陸軍奉行の大鳥圭介が豊を甲う碧血碑を七回忌にあたる一八七五年に建立した。

このように、諸外国との交流を通じて色々な文化や科学技術などが函館を通して日本に入ってきた。なかで、人間を平等視して愛する博愛精神が函館に根づいていった。函館が、外国との交流の中で得たものは、時代を超えて函館の人々の心の中に息づいてきた。

今、世界中がテロの問題で苦悩している。その原因が宗教対立や民族対立、貧富の差である。一方、新しい希望を持って二一世紀を迎えたい。そのために、アメリカでの同時多発テロなどに代表される人間の愚かさや、それを覚える大きな証を百五十年前に函館の市民が経験していた。これが二一世紀へのメッセージになると思う。函館の魂は、本当の意味で世界の平和に対してつなげていく大きなものとなる。

函中同窓生が故郷を思う心の中には、どんなに時代が変わっても、函館に住んだ先人たちの博愛、平等という魂を受け継いでいると思う。函館の生命は、世界に誇れるものがあるし、世界を作る大きな原動力が函館の中にあることを、日頃の国際交流を通じて強く感じている」と講演を締めくくった。



米木かおりさん(69期)とう〜み(98期)

講演会の終了後、会場を変えて、午後六時より、懇親大会に移った。大会の司会は、第69期・吉田雄治氏と71期・島田夕起子さんが担当。最初に、旧制・函館中学校校歌(同窓会歌)「玄冥の北の一道...」を、69期・米木かをりさんのピアノ伴奏で全員で合唱した。



子連れ参加の石井さん(90期)と101期生

第25回・東京支部親睦大会出席者一覧 (平成13年10月27日・青山ダイヤモンドホール)

- 昭和10年卒(37期) 室谷邦雄
- 昭和13年卒(40期) 相馬正樹
- 昭和14年卒(41期) 佐藤勲儀・松井亮太郎
- 昭和16年卒(43期) 家坂孝男・井筒吉彦
- 昭和17年卒(44期) 梅崎総一・神山茂郎
- 昭和18年卒(45期) 池上謹之助・田沼修二
- 昭和20年卒(48期) 船木政司
- 昭和24年卒(51期) 渡辺丞二
- 昭和25年卒(52期) 奥山和宏・小野寺吉彦
- 昭和27年卒(54期) 三國比左男
- 昭和28年卒(55期) 安藤哲雄・石田 端・小泉龍彦
- 昭和29年卒(56期) 瀬田松吉昭・中村勝哉
- 昭和21年入学 長島 康・福津達男・二上達也
- 昭和28年卒(55期) 赤澤 高・池田克彦・北原 徹
- 昭和29年卒(56期) 浅岡 勤・大井 孝・内藤 博
- 昭和30年卒(57期) 西田 実・吉田 孝・山内隆陽
- 昭和31年卒(58期) 塚本弘子
- 昭和32年卒(59期) 荒川 博・鶴島克孝・吉田精吾
- 昭和33年卒(60期) 厚谷純吉
- 昭和34年卒(61期) 佐藤 健・坪田憲俊・永野 巖
- 昭和35年卒(62期) 藤原正樹・唐沢フミ子
- 昭和36年卒(63期) 宮川美智子・山内令子
- 昭和37年卒(64期) 小林重行・真船 昭
- 昭和35年卒(62期) 高橋留美子
- 昭和36年卒(63期) 相澤貞俊・石月言成
- 昭和37年卒(64期) 大久保泰宏・岡本 興
- 昭和38年卒(65期) 金子公彦・菊池紀邦
- 昭和39年卒(66期) 佐々木住明・橋本正夫
- 昭和40年卒(67期) 畑中万弘・青木真紀子
- 昭和41年卒(68期) 藤田美穂子・三上和子
- 昭和42年卒(69期) 水島紀子・水島晴江
- 昭和43年卒(70期) 荒井 浩・小松康宏・八田邦夫
- 昭和44年卒(71期) 小林嘉則・佐々木和夫
- 昭和45年卒(72期) 戸村文彦・中村 崇・渡辺親夫
- 昭和46年卒(73期) 石井多香子・石崎篤子
- 昭和47年卒(74期) 坂上節子・土橋道子
- 昭和48年卒(75期) 福本元子
- 昭和49年卒(76期) 池田 斉・上田健司・北村尚一



- 昭和53年卒(80期) 佐古紀興・佐藤智樹・鈴木三則
- 昭和54年卒(81期) 関 英夫・徳田定勝・山崎栄治
- 昭和55年卒(82期) 佐渡谷安津雄・荒木百合子
- 昭和56年卒(83期) 泉 清美・上垣美以・片岡洋子
- 昭和57年卒(84期) 杉村幸子・田中公子
- 昭和58年卒(85期) 菅原大作・千葉恵寿
- 昭和59年卒(86期) 花梅吉夫・松田幹夫・安田康次
- 昭和60年卒(87期) 木戸正文・及能誠一
- 昭和61年卒(88期) 白崎淳一郎・相馬 亮
- 昭和62年卒(89期) 山本晴義・大河原綾子
- 昭和63年卒(90期) 児玉久美子
- 昭和64年卒(91期) 梅田五郎・花巻省三・吉田雄治
- 昭和65年卒(92期) 梅田やよい・大久保節子
- 昭和66年卒(93期) 高藤裕子・山本久恵
- 昭和67年卒(94期) 米木かをり
- 昭和68年卒(95期) 加納元雄・川村哲雄・中村興治
- 昭和69年卒(96期) 市澤仁美・古賀純子
- 昭和70年卒(97期) 鳥田夕起子
- 昭和71年卒(98期) 加藤哲夫・菊池佳裕・小林繁治
- 昭和72年卒(99期) 谷口雅典・丹羽 修・村田秀樹
- 昭和73年卒(100期) 佐野香苗
- 昭和74年卒(101期) 内田眞介・小林隆康・中畑 洋
- 昭和75年卒(102期) 日沼千尋
- 昭和76年卒(103期) 土橋敏明・増田博幸・吉川忠幸
- 昭和77年卒(104期) 桑原洋子
- 昭和78年卒(105期) 垣坂 清・島津路郎・長澤一徳
- 昭和79年卒(106期) 松田 司
- 昭和80年卒(107期) 富山香里
- 昭和81年卒(108期) 白淵 誠・大西 望・片瀬裕巳
- 昭和82年卒(109期) 西谷尚久・松井栄助・山本直樹
- 昭和83年卒(110期) 今任美也子・小林八千代
- 昭和84年卒(111期) 塩田安子・中西ひろみ
- 昭和85年卒(112期) 松永 久
- 昭和86年卒(113期) 坂内勇仁・渡辺康子
- 昭和87年卒(114期) 石井清香
- 昭和88年卒(115期) 山形夕佳
- 昭和89年卒(116期) 安達公裕・五十嵐純・池田隼人
- 昭和90年卒(117期) 酒井 拓・百島大吾
- 昭和91年卒(118期) 石田雄一・大良信哉
- 昭和92年卒(119期) 佐々木宏樹・杉崎恵一
- 昭和93年卒(120期) 早川直基・山本卓也・山本 司
- 昭和94年卒(121期) 中浜大輔
- 昭和95年卒(122期) 佐賀井奈美・相馬絵里
- 昭和96年卒(123期) 長畑慶子・能代実希



(5) 東京白楊だより

特集記事

函館街並み今・昔

◎木下順一氏略歴  
 1929年函館生まれ。  
 1954年文部省図書館職員養成所卒。タウン誌「街」発行者。1997年第48回函館市文化賞、98年第32回北海道新聞文学賞を受賞。  
 主な著書（小説）  
 「人形」影書房。「湯灌師」河出書房新社。「少年の日に」河出書房新社他。

タウン誌『街』編集長 **木下順一**



昭和17年頃



現在の末広町

東京以北最大の市

明治時代、函館は北海道経済の八割を握っていた。その繁栄ぶりは今では想像もつかないが、古い写真を見ると頷ける。この白黒写真もその証拠資料の一枚だろう。銀行、商社、問屋が目白押しに軒を連ね、そこが末広町であった。函館にこんな言葉が残っている。弁天の親方衆、大町の旦那衆、内濶の奴である。その内濶はしだいに発展して人口がふえ、明治十四

年、地蔵町の一部を合併し、末広町とした。以来、函館の中心街となった。なかでも兼森森屋デパートはその独特な形と、外壁の黄緑色で、港から見る函館の景観を一層引き立て、数多くの油絵のモチーフとなってきた。末広町の繁栄も、昭和九年の大火以後は、丸井今井デパートを扇の要

この頃の函館の人口

|             |                    |
|-------------|--------------------|
| 明治10年(1877) | 28344人             |
| 明治20年(1887) | 46794人             |
| 明治39年(1906) | 90885人             |
| 大正9年(1920)  | 144740人<br>(全国9位)  |
| 昭和5年(1930)  | 197252人<br>(全国10位) |
| 昭和15年(1940) | 203862人<br>(全国17位) |

とした。十字街ににぎわいが移った。十字街は隣町の恵比寿町にある映画館や、銀座通りの歓楽街を控えて昭和十四、五年頃まで函館一の繁華街としてその繁栄を誇った。



整備された東浜



昭和27年旧金森ビル

函館の文化と経済の象徴旧金森ビル

昭和九年まで、旧金森ビルは金森デパートとって文字通り子供にとつては玩具の宝庫であり、大人にとつては贅沢品が豊かに並べられている百貨店であった。喫茶店もレストランもあった。

函館は昭和四、五年の世界恐慌の波をくぐっていない。北洋漁業が隆盛であつたからだ。しかし敗戦とともに漁場が失われ、北洋漁業も衰退の一途をたどつた。この白黒の写真はそれでもまだ何とか北洋漁業基地の面目をたもつていた頃のものだ。

かつて全盛を誇つていた旧金森ビルも色つやがなくなり、衰微していく函館を彷彿とさせている。岸壁の建物群もこころなしか淋しい。函館の中心はいつの間にか、松風町に移つていった。



大正初期



現在の五稜郭交差点

(7) 東京白楊だより

古戦場跡街道

天皇が来ると行幸、皇太子は行啓というそつだ。函館戦争でゆかりのある街道を、別名行啓通りというのは、大正時代皇太子が来たからだろう。私の知っている函館戦争街道は行啓通りになってからである。角に三上三省堂という薬屋があり、隣に古本屋があつた。

この行啓通りをずっと行くと、古戦場の跡、五稜郭公園に出る。戦中・戦後、公園の広場は小学校の運動会に使われていた。桜が咲くと花見でにぎわつた。行啓通りは週に一度、水曜日だったか、夜店が出た。戦前の夜店はにぎやかで、ここで初めてバナ

ナ売りをした。それを画に描いて書められたことを覚えてる。今、ぼつぼつと夜店も復活してきたと聞いたが、五月中旬、五稜郭祭が始まる。函館戦争を再現し、土方歳三に扮する若者を募集し、人気がある。ミスター土方ならぬミスターのエントリーもあると聞く。

中心街の移り変わり  
明治、大正、昭和の戦前までは北海道経済の玄関口として、町の中心は未広町から十字街が繁栄したが、戦後の北洋漁業最盛期は松風町が賑わい、観光都市としての現在、街の中心は地域の合併もあって五稜郭に移っている。

## 函館港今昔物語



大正初期



昭和38年



現在



北洋船団出航風景・昭和36年

沖がかりしている大型船であふれにぎわっている大正時代の港。外国の街のような家並みも函館の進取の気性をみながら置いているではないか。いちばん手前にイギリス領事館が写っている。ちなみに、港に浮かんでいる船形は三島型（スリーアイランドタイプ）で、この型は母船式さげます流し網漁業の母船としても使用された。桜の花ごしに望む港は、北洋に出漁する独航船が集結し、船は鰻を岸壁に向け整然と係留している。

向かって行った。かつて小林多喜二『蟹工船』の舞台となった西カムチャツカへ行くカニ船団は、この一月後出航する。こうした繁栄を誇っていた函館港の面影は今はない。天然の良港と言われていたが、地勢的におくれをとりやすい位置の上、大型船を接岸させるだけの水深もない。現代、良港と言われるには手を入れなくてはさまざまな機能を備えなければならぬ。造成工事中の港町大型公共埠頭がどういう役割を担う港になれるのか。むかしの人は「お宝は海から来た」と言っていた。それを受け入れるために、函館の努力が今、問われている。

北洋漁業  
昭和二十七年（一九五二）に、戦後初の北洋船団が母船三隻独航船五十二隻で基地函館を出発して二年後、函館では北洋漁業再開記念北洋大博覧会を開催した。最盛期には一万トン級の母船と百トンクラスの独航船四十隻で構成する船団が十四船団も集結、総計四百隻を超える船が函館港内の岸壁を埋め尽くした。函館山から見ると、おおげさでなく三六度海上が船で埋っていたものだった。しかし、国連海洋会議でサケ・マスの母川国主義が国際的に定着、さらに米国、カナダ、ソ連の二カイリ経済水域が設定されるなど北洋を巡る環境は厳しくなり、ついに一九九二年から北洋への華やかな船出の光景は消えてしまった。

## 駅前電停・駅舎・今昔

安全地帯も道路標識もなかったむかし、電車の軌道内を自家用車も自由に走っていた。昭和初期の写真だろうか。まだ私は生まれていない。駅前電停付近を私がよく知るようになったのは戦後まもない、十七歳頃からだ。右の角に丸南というそば屋があった。木造の三階建てだった。よく叔母に丸南のそばを馳走になった。丸南の真向かいに、叔母の志田化粧品店があったのだ。そこには私と同じ年齢のいとこがいて、日曜日になると遊びに行き、この界限を知るようになった。叔母の店の隣がタケタのカメラ店であった。丸南は駅をはさんで

逆側に移転し、現在は和光デパート横通りに再移転した。丸南そば屋が拓銀ビルになると、叔母の店もタケタのカメラ店もなくなった。叔母は店をたたんで上京したが、タケタのカメラ店はポーニ森屋デパートが増築し、ポーニアネットワークを作るとそこに入った。創業者の竹田又平さんは本業のほかに、古い写真を保存展示する函館写真回廊を作り、日本の写真発祥の地の矜持を内外にアピールしている。足繁くこの駅前電停付近を訪ねたのは、叔母の店があるほかに、大正堂という当時は市内でも大きな本屋があったからだ。戦後まもなくは書棚がたくさん並んでい



たが、書籍は少なかった。たまたまそこに祖父の友人が勤めていたので、岩波から出た西田幾太郎の『善の研究』を優先してもらったこともあった。

ポー二森屋内にあった名画劇場で初めて洋画を見た。ジャン・ルイ・バロオ主演の、原作者が『影の部分』、日本名は『しのび泣き』という、悲劇に終わる音楽家の恋愛映画であった。この頃のデパートは街の文化の中心だった。



大正3年に新築された駅舎



昭和30年頃



現在



現在の駅舎は昭和17年完成



新駅舎は平成15年秋頃迄に完成予定

大正三年十二月十日に新築落成されたこのハイカラな駅も、昭和十三年の火事に遭い、現在の駅は、同十七年十二月二十日に竣工したものである。駅を焼失したとき、ホテルも入った駅ビルが構想され、青写真もあったというが、昭和十六年十二月八日第二次世界大戦が勃発すると国家予算は軍事一色になり、駅建設費は削減され、二階建ての貧弱な現駅に変更されたのだ。

駅の待合室は俗っぽいが、人生の悲劇・喜劇を満々と溜めているうつつである。人目を忍ぶ男女、挫折して故郷へもどる中年男、未知の土地を好奇心いっぱい訪ね

る旅行者…。啄木は、ふるさとの訛りが聞きたくて、用もないのに待合室を訪れた。詩人の中野重治は、雨の降る駅のベンチで、エンピツをなめなめ詩を書いた。寂しくなると私もスケッチブックを持って待合室へ行き、さまざまな人生を描く。

新しい駅舎の完成図が発表され、十年來の計画案が動きはじめた。平成十五年秋頃迄には駅舎が完成。駅前広場が整備されるのは、平成十七年三月になるといふ。函館の玄関が新しいシンボルゾーンとして活性化されることを願いたい。



### 岡野貞一小伝

42期（昭和15年卒）  
安富 隼平



函中校歌（現同窓会歌）は、大正3年創立20周年を記念して制定された。曲は水長調4分の4拍子12小節弱起、素材で気品あり晩翠の詞と一体になって美しい。岡野貞一36歳、作曲家として最も冴えた時期の作品である。

岡野貞一は一八七八年、明治11年2月16日鳥取県土族の家に生まれた。明治33年東京音楽学校専修部を卒業し研究科に進んだ。同期卒業生は4名で、誠に狭き門であるが卒業生はひとかどの音楽家として遇され、岡野も研究生の頃からチェロ奏者、作曲家、教科書編集者、音楽教育者として才能を發揮した。以下この順に事績を纏める。岡野は音楽専攻であったがヴァイオリンも能くし、ユンケル教師の勧めで本邦初のチェロ奏者となった。当時の新聞に岡野貞一は研究生であるが後生恐るべし、声・器量・楽共に有望の一人也とある。明治40年マイステル教師の着任まで本邦唯一人のチェロリストとして活躍した。作曲で最初に認められたのは「帰雁」である。明治34年「中学唱歌」の懸賞応募作品で、瀧廉太郎の「荒城の月」「箱根八里」と共に若き作曲家の誕生とされた。明治から大正にかけて文部省唱歌「春が来た」「水師營の会見」「日の丸の旗」「紅葉」「春の小川」「朧月夜」「故郷」「児島高德」等数々の名曲を作った

ただ文部省唱歌は作者名を公表しなかったから、岡野の作曲と判明したのは歿後30年、昭和45年頃である。東京、名古屋、岡山等の市歌、旧制高専中等の校歌も作曲した。編集者としては明治34年に「中学唱歌」選定委員の一人を勤め、35年「唱歌教科書全四冊」37年「国定小学読本唱歌集」を共編した。明治40年文部省唱歌編集掛、作曲委員の一人となり、43年「尋常小学読本唱歌全一冊」44年から大正3年にかけて「尋常小学唱歌全六冊」を刊行、大正13年「高等小学唱歌」編集、昭和5年刊行した。音楽教育者としては、研究科在学中明治36年（25歳）授業補助（楽典・ピアノ・唱歌）となり後進を指導。明治39年（28歳）東

京音楽学校助教（唱歌）。大正10年文部省音楽科教員検定委員・視学委員。大正12年（45歳）教授。昭和7年（54歳）退官、嘱託講師となる。

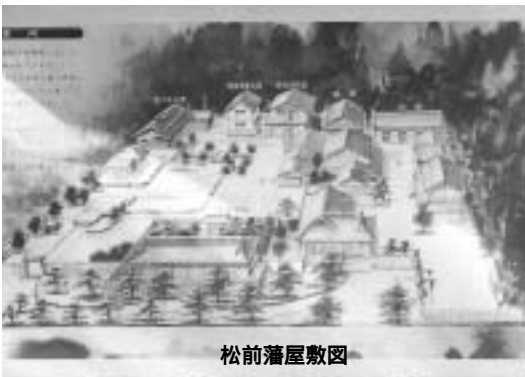
一九四一年、昭和16年12月29日、63歳で亡くなった。クリスチャンとして40年間日曜毎に、本郷中央教会堂のオルガン奏者を勤めた。音楽碑は鳥取城址と東京代々木にある。

松前のこと 友人のこと  
49期・50期（昭和21・22年卒）  
伊東 克朗

昨年の5月の連休に、函館での所用を済ませたあと、同期の中村幹夫君と松前へ廻った。

海猫啼いてむかし松前渡るころ

「松前渡る」は俳句では夏の季語である。松前は江戸時代には藩や奉行所が置かれ、松前を通らなければ蝦夷に入れなかったから、津軽や南部あたりでは蝦夷のこと



松前藩屋敷図

を松前と呼んでいた。雪が解ける五月頃に、内地から商人たちが蝦夷に渡ったのでこの季語になったのである。「松前帰る」は、根雪になる前に商人達が手仕舞いをして引き揚げるので秋の季語になっている。また、春に「漁夫渡る」夏に「漁夫帰る」という季語もある。鱧漁が盛んな昔から、春先には北海道の網元に東北から多くの漁夫が雇われて行き、漁期が終わる5月頃にはそれぞれの故郷へ帰ったのが季語になったのである。

しかし「松前渡る・帰る」は、新しい歳事記にはほとんど載っていない。明治以降百年に及ぶ日本の政治経済の変化は、これらの季語を完全に死語にしてみました。

「漁夫渡る・帰る」も、大平洋戦争後の鱧の漁獲量の激減や北洋漁業の衰退によって、今や忘れ去られようとしている。

清らかな在家の経に目つむれば  
松前へ出かけたのは、中村君に案内をお願いして、函中・小樽経専同期の故糸谷鉄太郎君の墓にお参りするのが目的であった。彼は平成11年の4月に福岡から松前に帰郷中に心筋梗塞で斃れた。

蝦夷は出稼ぎに来る所ではあっても、住む所ではなかった。松前では武士は別として、死者は共同墓地への合葬だったという。今は小高い丘に立派な納骨堂が建っていて、糸谷君は父母と一緒にその中に眠っていた。花と線香を供えて、中村君の誦するお経に瞑目しながら、葬式に参列できなかった胸のつかえがすうっと下りてゆくのを感じることができた。

菩提寺へ屋根瓦を寄進したあと

趣味は楽し  
54期（昭和27年卒）  
佐藤 正郎

城址公園へ。桜まじりの真つ最中で、名誉町民の金子鶴亭の銅像が花吹雪を浴びて立っていた。

風薫る鳴亭像は海向いて

中部高校生時代、美術部に属して間もなく退部した。絵具・画材が買えなかったからである。それ以来、金と閑ができたら油絵を描きたいと思いつけてきた。

待望の定年になって、二つのボトル・ネックに気付いた。一つは女房がいい顔をしないこと。これには彼女の友人の「あなたのご主人はそそっかしいからキャンパスを落とすわ。壁や床にくっついた油絵の具はなかなか落ちないわよ。」というアドヴァイスが効いているらしい。もう一つは車がないため行動が著しく制限されることである。かといってこれから運転免許を取るには、メニエル氏病の目眩発作がいつ起こるか分からないとして家族が総反対。それなら旅先で写真を撮り、それを見て描けばいい。

マイクロ・バスで月一回の風景撮影会をするカメラクラブを捜した。総勢20数人。気が知れるとまことに楽しく面白い。絵の手段はどこへやら、写真にすっからはまり込んだ。絵とちがつて勝負が早い。撮影会の一週間後にスライドでの講評会があるから、フィルムはリバーサル。ラボで現像してもらい自分でスライドにするから、経費はフィルム代・現像代とマイクロ・バスのワリカンだけがいい。

難点は二つ。一つは現像するまで出来栄が分からず、修正もきかないこと。だがこれは一種のスリル的楽しみでもある。もう一つは講師のプロにいい出来だと思っっている作品をケチヨンケチヨンに言われてムツとくること。それが構図・露出などに關する技術的な批評なら素直に納得する。なにせ相手はプロなのだ。だがそれが、「美しい」かどうかになると、時には素直になり難い。美は所詮主観的であって客観的な基準がないからである。そのうちに、ある哲学者の「とことん追求すると美の基準は常識に帰結する」に行き当たった。それ以来、ムツときそつなときは「先生の今日の常識に陰りあり」と考えてムツとしなくなつた。思いがけなく楽しい事もある。今年の2月、山中湖・忍野八海での富士山撮影会のこと。忍野部落の停留所そばで「アラ・マサロウサン」という女性の声。振り返ると同期のエミコさんである。「あれ、どうしたの?」「主人と旅行にきててね、ちょうどフィルムがなくなつたの。アンター一枚撮つてよ。」お安い御用とご主人とのツー・ショットをパチリ。偶然というものは確かにあるものである。

帰りのマイクロ・バスで話題が沸騰した。「佐藤さん、あの女性は何だ」「怪しいわね」「うん、昔の恋人」「だけと隣りにご主人らしい人がいたよ」「いや、あれはキョウダイがシンセキじゃないかな」「ほんとなら、隅に置けないわね」「そう、オレは真ん中を歩く人」……

出来た写真を見ると、ツー・ショットはよく撮れていたが、バックの富士山はほとんど見えない。そこで山中湖での富士山写真を一

緒に送つた。並べればバックも横も大差あるまい……と。ただし手紙にはバス内の話題については一切触れなかつた。

## ポストンの思い出

62期 (昭和35年卒)  
荒井 浩

数年前の夏ポストンに一カ月程滞在する機会があつた。ある日宿泊先のホストマザーと食事の折り、郷里函館の話から五稜郭に及んだ時、ポストン湾沖のジョージ島へ行く事を勧められ、早速行つて見た。観光客用の船で40分程の所だったが、何んとそこには五稜郭の原型があるではないか。

案内板の説明では、ルイ14世の頃の軍事専門家ポーバンの発案であつた。實際この足で歩いて見ると、昔五稜郭で子供の頃無心に遊んだことが思い出され、なつかしいひとときであつた。因みにポストンのバンカーヒルが英米戦争最後の地であるならば、函館は戊辰戦争最後の地である。因縁めいた

ものを感じる。五稜郭タワー株式会社へも資料を送つたところ、感謝された次第である。

もう一つの思い出は、同じポストン滞在中、引率した学生のホームステイ先の母親の姉が、そろそろ記憶が薄れかけているが、あの大韓航空機撃墜事件で命を落としたとの事であつた。遠い異国の地で肉親を失つた遺族の気持は察するに余りある。言葉の關係もあり、小生のような者から直接聞くことを前々から待ちこがれていたようだった。うる覚えの記憶をたどりながらの話聞く彼女の眼差しには涙があふれんばかりの真剣さにいささか圧倒されそうだった事を覚えていて。

帰国後、函館にいる姉に頼んで稚内より資料を取り寄せ、英文による説明文を書き添え、送つたりもした。その後お礼の品が届き、その一つが、ポストンの野球チームのレッドソックスの野球ボールで、今もリビングルームのサイドボードの中に飾つてある。やはりなつかしい思い出である。



英米戦争最後の地バンカーヒル

## 箱館開港 (1)

64期 (昭和37年卒)  
佐渡谷安津雄

近代日本の黎明期、幕末期の「箱館」は貿易港として開港、かずかずの交流がなされ、近代日本におけるあらゆる分野の進展に先進的役割を果たした唯一の国際都市

でした。その息吹が今日まで連なっていることをまず国際交流の先駆けの地「箱館」の海港時、1854年アメリカ、1855年フランス、1858年ロシアと進めてまいります。

日米和親条約締結の翌年1854年(安政元年)アメリカのペリ艦隊が入港し、測量班と写真班



「ペリー遠征記」久根別川より函館山を望む

の宿舎に 実行寺 があてられ  
ました。宿舎の寺内には暗室が造ら  
れ、写真撮影が行われ現像されま  
した。

ペリー一行が箱館を去るに際し  
世話になった実行寺をはじめ、モ  
デルになった女性達や多くの人た  
ちに鄭重なお礼をし、貴重な品々  
が贈られた記録があり、親密な交  
流があったことがうかがえます。

初めて写真がもたらされた箱  
館・実行寺は、日本の写真史に記  
され6月1日の「写真の日」は、  
ペリーより松前勸解由に、滞在中  
撮影した写真が贈られた日を記念  
したものです。



1855年(安政二年)6月7  
日フランス、インドシナ艦隊シビ  
ル号は疫病の乗組員を箱館に上陸  
養生させる許可を箱館奉行所に願  
いでました。

これに先立つた長崎では国交が  
開かれていないことを理由に、同  
様の願いは長崎奉行所により拒否  
されておりました。

しかし箱館奉行、竹内下野守保  
徳は幕府の許諾を求めずに、人道  
的立場から即断専決し、上陸を許  
可して実行寺内に病者養生所を設  
け、新鮮な食糧を供給、日本人医  
師二名を派遣し看護に努めました。

奉行の博愛精神・人道的意志と  
は別に疫病外国人の看護の要請は  
ことごとく断られ奉行は苦慮した

が実行寺住職はこれを快く引受け  
すすんでその任にあたったと言わ  
れます。日仏友好親善の始まりと  
いえます。寺で養生したフランス  
人乗組員は百名を越えたといわれ  
そのうちの6名は不幸にして病没。  
現在の外人墓地に葬られました。

しかし、他の養生乗組員は快癒  
して無事に帰国できました。艦隊  
付きの神父は死者のために祈り  
かつ又病にたおれ望郷の念にから  
れた人達のためにも祈りを捧げま  
した。

寺の僧侶たちの読経のなかでカ  
トリックの祈りが捧げられていた  
ことは、今日の私たちに大きな意  
味を持つて語りかけてくれます。

(1992年、函館日仏協会は、往  
時を偲び病没乗組員の霊を慰め、  
日本とフランス両国の永遠の友好  
を願い「函館日仏友好記念碑」を  
外人墓地内に建立しました。

2001年10月、1954年来  
日以来ながく、函館の福祉や文化  
に多大な貢献をしておられる仏人  
カトリック神父P・グロッド氏は  
「日仏親善の発祥」及び「仏教と  
キリスト教の両宗教者の友愛の証  
し」として「日仏親善函館発祥記  
念碑」を実行寺境内に建立致しま  
した。除幕式は、日蓮宗の正式の  
作法に則り挙行され、法華経の読  
経の間にグロッド神父によるアツ  
シジの聖フランシスコの「平和を  
求める祈り」が読誦されました。

1858年(安政五年)日露修  
好通商条約の締結に基づいて同年  
10月24日ロシア国初代領事ゴス  
ビツチが着任。実行寺にて居住、  
執務が開始されました。

同年11月13日(土)、14日(日)  
の礼拝は実行寺の庫裏・客殿にハ  
リストスの祭壇が仮設された礼拝

室で行われ、司祭が唱える祈りの  
ことばにこぼれるように無伴奏の混  
声合唱と誦経者の独唱が進められ  
ました。日本で初めて演奏された  
クラシック音楽の聴衆は寺で修業  
する数十人の日蓮宗の僧侶と家族  
や使用人たちでした。この寺は僧  
侶の読経の声とハリストスのミサ  
曲とが互いに響きあう、東西  
音楽交流の舞台となりました。(合  
唱発祥の地)又、領事館付きの医  
師は直ちに病院を開設、身分や貧  
富に関係なく、箱館の町民達の診  
療にあたったり、貧しい人からはお金  
を取らないなど、町民の信頼がよ  
せられました。西洋医学の病院の  
先駆けといえますよ。

「函館開港(1)」は昨年の白楊ヶ  
丘同窓会東京支部第25回大会の講  
演会での内容をまとめたものです。  
全文掲載できませんでしたが、次  
号に(2)としてつづけていきたい  
だきます。

### 振り返れば故郷

98期(平成8年卒)  
山形 夕佳



PTAのお  
母さん達が一  
生懸命植えて  
くれたマリー  
ゴールドが風  
に揺られなが

ら、「また明日」と、手を振って  
くれる。池の鯉はえびせんが大好  
き。犬やひよこを飼ったり、シロ  
ツメクサの蜜を吸ったり、鬼ごっ  
こやかくれんぼ……時間を忘れて  
顔も体も服も全部真っ黒けになっ  
た私を、いつも変わらず笑顔で迎  
えてくれる、私の帰り道。

6歳で函館に引っ越して、間も  
なく小学生になった私は、祖母か  
らもらったヒカビカの赤いランド  
セルをしょって、毎日同じ帰り道  
遅刻しそうな時は、家の隣にある  
函館競馬場の馬を借りた気分。  
大好きな先生が転勤になった事を  
聞かされた日は、先生と離れたく  
なくて、何度も振り返り立ち止ま  
った。みぞれ道にはまった日には  
足まで凍みてジンジンしながらも  
スキップを踏んだ、私の帰り道。

雨にも負けず、風にも負けず、  
そして雪にも負けず。私は幼稚  
園から高校まで一日も休んだ事  
がない。5歳の時、手首を骨折して、  
入院と言われたその日も、両親を  
涙で説得。あの日が無ければ、こ  
の記録も当然あり得なかった。

絶対音感がある。一度聴いた  
曲はすぐに伴奏しながら歌える。  
鼓膜をゆらす全ての物が音楽にな  
る自分への理解者はなかなか居な  
かった。我が家はまぎれもなく体  
育会系血統なのだ。

附属中へ進学すると、両親の影  
響でバスケットボールを始め、  
後々、大学へは特待で進学するに  
至る。文武両道を目指すものの、  
ハードな練習からの睡魔には悩ま  
されたが、どんなに辛くても、寒  
くても、朝が早くても、好きだか  
ら乗り越えられたと思う。音楽が  
バスケットボールかの究極の選択  
で、私は迷わず後者を選んだ。高  
校の修学旅行時、直感で新天地を  
大阪と決め、関西外語大学入学。  
私の人生はこれだ!と思っていた  
のに。入学後三カ月でその夢は絶  
たれた。怪我での引退。毎日通院。  
毎日点滴。函館脳神経外科の西谷  
先生(父と私の二代に亘って中部  
高校バスケット部の先輩)には本当に



函中バスケット部創立70周年で歌う う~み

お世話になった。

思考能力はおろか、生きる気力  
も失いかけていたある日、大学の  
友達に気分転換に、と軽音楽部に  
誘ってくれた。無我夢中。とにか  
く悪夢から逃れたい一心でひたす  
ら歌い、ベースやドラムを学ぶ。  
寝る間を惜しんで。

溺れた私が必死でつかまっただ  
は、まぎれもなく、かつて断念し  
た音楽の世界であった!心身共に  
力が蘇り、今までの当たり前の出  
来事や周囲の仲間達、家族、故郷  
……全ての物の有り難さ、自分の未  
熟さを痛感した。

ああ、なんて素晴らしい!  
音楽の魔法を、今度は私が皆に  
伝えて歩かなければ。この奇跡に  
気付くまで一年半、ちっぽけなプ  
ライドと挫折感、音へのコンプレ  
ックスは、どうやら途中で置き忘  
れてきたようだ。

理論を学んだわけでも、誰かに  
教わったわけでもない。生きてき  
た事全てが私の音楽。帰り道の先  
には、ずっと変わらない我が故郷、  
函館がある。

第42期・高楊会

安富準平 記

高楊会東京支部は今後も存続するが、会合は平成13年を以って終了とする。高齢の故である。最終の会合は傘寿を兼ねて、平成13年11月16日12時半から「ユートーキョースキヤ橋」高尾「桂」の間で開催した。会費五千元。在京27名中9名出席。写真右から白井洋三、安富準平、荒木勇、杉村福穂、山内正彌、長沼洋一、飯島繁、仲村庄司、村山正郎。受付・荒木、司会・仲村、会長挨拶・山内、総務・村山、庶務・安富。傘寿記念品は、村上健介本部長選定の函館絵葉書と大沼狐小物。仲村司会は百円ショップのタイマーを配ってスピーチの時間制限をしたが、久しぶりのこととて超過ばかり。



荒木兄ご持参の卒業記念サイン帳の回覧あり、誠に懐しく拝見した。(付記)高楊会員228名中現在員83名、物故者の118名うち戦死者25名、不明27名(本年四月発行の本部機関誌「高楊会だより」第45号から)

第45期・翠楊会

田沼修二 記

例年通り、今年も6月15日(土)午後NHK青山荘で翠楊会東京支部の総会を開いた。他の会合との重複や旅行中の者、それに体調不良の欠席者が多く、14名という淋しい集まりとなった。物故会員への黙祷、幹事から経過報告のあと乾杯、懇親会に移り近況報告になると、自分の健康問題に触れる者が多く、欠席者の返信にもそれが多かった。そのせいもあってか、アルコールや食事の量がめっきり減ってきた。

一昨年に出席してくれた長崎大学名誉教授の橋場君が、今年も学会の合間を縫って駆け付けてくれたが、橋場君は老人医学の学会のメンバーで、直面している我々高齢者の医療の問題について含蓄ある話をしてくれた。

懇談の席で日立市から出席した佐藤君から、いわき市に住む小野寺秀也君が最近逝去された旨の報告があり一同肅然とした。

ところで翠楊会員は昭和18年卒業で、今年で卒業60年目を迎える上に、全員が喜寿を迎えたので、

今年9月に函館で記念総会を開くことになっている。幹事から一人でも多くの会員の参加を要請し、記念撮影をして会を閉じた。

第49・50期 東京九十九会

伊東克朗 記

東京九十九会は、三木会と称して毎月第三木曜日の昼に、都合のつく連中がサンシャイン60の57階緑丘会館に集まって昼食を共にしている。昨年5月からスタートして一年を経過した。

一年間の出席人数は、8月は休会したので11か月で延べ116名、最高15名、最低7名、平均12名弱という数字が出ている。東京、神奈川、千葉、埼玉4都県の在住者が40名だから三割ということになり、常連も決まりつつある。



もちろん参加者は四都県には限らない。勤労動員や軍関係の学校の思い出の記録を残そうと頑張っているYなどは毎月愛知からデイベックを背負って出てくる。この一年間には札幌・函館・水戸などからの参加者もあった。また、太平洋戦争時の最上級生だったわれわれのクラスに軍関係の学校から帰ってきて一緒になった48期のYが毎月出席しているし、その他にも一緒だった48期が二人ほど顔を見せてくれた。

いずれにしても、かつての軍国少年動員少年が、齢70を過ぎて毎月集まって、あれやこれやの話に花を咲かせることができるのはまことに楽しいことではある。

第51期・あずまし会

三國比左男 記

第51期どんじり会全国大会は、あずまし会主催により、平成13年10月18日箱根プリンスホテルで、「どんじり会新世紀大会(世紀を超えて永久に青春)」として開催された。折からの台風21号の接近をものともせず、夫人を含む78人(函館20、札幌27、内地31)が参集、記念撮影後の総会では物故者99人に黙祷を捧げた。祝賀会は同窓会歌斉唱、福岡の西川浩一君の乾杯で始まり、参加者の紹介がすんで和気あいあいの歓談が席を行き来して行われた。会場を移しての二次会では、ほぼ全員が自由に席をとっての歓談が続くと共に、カラ



(13) 東京白楊だより

## 第54期だより

佐藤正郎 記

今年には卒業50周年。秋に函館で全国版同期会がある。だから北海道組は一人も居らず、総勢23人。まだ二、三人見えないが、どうやらチュニジア戦が終わり次第かけつけるというらしい。

今年の幹事長サトウ君の開会宣言。一人ずつの近況報告が進むにつれて、盛り上がり度は急ピッチに高まる。フミコさんの女優第二作目の「樺太」が紹介される。第一作目の「散華」は学徒出陣がテーマで感動的だった。京都からのサチコさん、大阪からのオカモト君に続いて、福岡からのキユウノ君から「来年は福岡」と発表。そして間もなくメキシコに帰るアメリヤ君が、「今度はメキシコでやる」と提案する。

チュニジア戦観戦組が参加。「どうだった?」「一対〇で日本勝ち」「ウソよ、二対〇よ」。見ていたテレビが会館の外が中かに基づく情報の差である。会館外組が言う。「オレはアンタと違ってマジメだから、時間が気になって終わりまで見ていられたんだ。」五十歩百歩だがね。

二次会は近くのバブの貸切り。ギュー詰の店内で、会話・笑い・歌声が交錯しどよめきはじける。「新宿駅周辺に機動隊が多勢いた。九時過ぎないと満足に通れないらしいわよ。」「じゃあ、ここでゆっくりやろうよ。」「そこへひょっこりマツハシ君が現れる。「東京で業界の会合があつてね。だけどここを

捜すのに30分はかかったぞ。」

午後11時、駅周辺の交通は平穩だったが、警官の姿が目立ち、駅周辺と構内では何組もの若者が群れて歓呼の雄叫びをあげていた。

## 第60期・東京3・3会

上平慶一 記

昭和33年卒業の第60期東京3・3会は2月15日(金)、神田一ツ橋の学生会館で開かれた。集まったのは42名である。今回は、久し振りに顔を見せてくれる人が多かった。還暦を過ぎて時間的余裕が生まれたからであろうか。

紅谷弘一君の司会により開会。幹事長の内藤尚君の挨拶、故郷函館から駆けつけてくれた川村美紗子さんと山田(佐藤)智恵子さんに一言ずつ挨拶をお願いした。遠路、九州佐賀から参加の中角久典君の乾杯発声により、開宴となった。

わが3・3会ではアトラクションの必要はない。あつという間に45年ほどタイムスリップし、会場のおちこちに、賑やかな歓談の輪が広がった。

勿論、語り足りぬ思いを胸に、二次会に繰り出したのはなんと30余名。まだまだ体力・気力も充実している。会場は、お茶ノ水駅近くのスナック・アミ。遅くまで、大いに盛り上がったこと言うまでもない。そして、終電を気にしつつ、次回での再会を楽しみに散会となった。

尚、かつて幹事を努めてくれた水澤(照井)房子さんが2年程前に急逝されたことが分かりました。ご冥福をお祈りしたいと思います。

## 第61期・活動紹介

金子公彦 記

61期は、各種行事参加者のみならず会費納入者も一番多い同期会で、2年前に還暦を迎えました。各々がそれを人生の区切りと受けとめたことが、活発な活動に至る第一の要因ではないかと思っております。社会的役割を全うして、これから自分の時間に素直に向き合っていくこととする姿勢が生まれたのではないのでしょうか。

先ず役を前任者から引き継いでびっくりしたことは、該当メンバーが北は青森から南は九州までと広範囲に渡っていること。もう一つは、過去に案内を送付しても3回連続無回答者は対象外になっていたこととす。

そこで、先ず本来の同期会員の名簿を再度作成し、会則を作り直した。会の目的は、会員相互間の親睦・消息把握そして文化教養を身につけ見聞を広め、明るく楽し



く、健康的なシルバーライフを送る一助となることです。会長、副会長、会計などの役員も決め、年間行事計画や緊急連絡網、訃報連絡票や開催行事記録も作りました。活動の一番の原動力は年1回の定例会の他に、有志で同好会を結成し、自由に行事開催を行っていることではないでしょうか。同好会にはゴルフ、旅行、釣り、陶芸、伝統文化鑑賞、美味しい日本酒を楽しむ会等々バラエティに富んでいます。

実際には複数の行事を同時に開催することが多く、伊豆での宿泊ゴルフと観光の組み合わせでは32名(内女性10名)参加、甲府での「健康野菜収穫祭」では、ゴルフの後石和温泉宿泊、翌日は武田神社・県立美術館・ワイナリー見学そして当同期会員の菊池氏所有の畑で大根や白菜、長ネギを収穫して大きな袋で東京まで持ち帰るなど27名の参加者があり、全員大満足。この他にもゴルフと釣り或いはゴルフと旅行を組み合わせた会などを開催しております。

お陰様で皆さん非常に協力的に参加者も多く、また参加したいと言う要望も直ぐ出ます。小規模のものでは、送別会や暑氣払い、更には病後の方を励ます会、そして各種行事の準備会なども多数行っておりです。変わったものでは、57期の先輩から年1回ゴルフの対抗戦を申し込まれ、既に3回開催されております。

通信手段は基本的にはe-mailです。頻度は下がりますが郵送も行ってあります。このように各種行

事のご案内を頻繁に出していること、誰でも気軽に楽しめる行事を企画していること(幹事の努力の賜物です)、そして何と云っても会員が皆協力的であることが、活性化の要因ではないかと考えております。ご参考になれば幸いに存じます。

## 第62期・函中三五会

小松康宏 記

函中三五会関東支部は、今年も1月19日(例年通り第3土曜日)に新宿モノリス29で定例の集いを持ちました。

今年は、今までに最高の37名が出席、女性9名の参加も得て、昔の思い出話、定年後の各種経験談や息子や娘のことを交えた近況報告、病気の体験や如何にして病氣と戦って来たか等、話題はつきず、また、北海道から宮本君、水戸から池田君が、昨年に引き続き出席



銚田からは、天野君が身体を悪くした奥様が行って来なさいと言ってくれたと久しぶりで出席してくる等いつにも増して盛大でした。午後5時〜8時が、あつと云う間に過ぎ、校歌を歌い、記念撮影をして散会。その後、なおも、分かれ難く、25名は二次会へ、最後まで残った男性軍が散会したのは23時でありました。

今後は、遷厩を迎えたこれからの人生に対する考え方も話し合うようになるのではと思っています。

また、昨年に引き続き、今年も函館本部との合同旅行会を予定して、計画を進めていましたが、6月22日〜23日に関東から16名、函館から15名の参加を得て、実現しました。今年、岩手県の藤原の郷、毛越寺、厳美溪、秋田県の須川温泉と云うコースです。関東勢は、東京駅に集合して新幹線で水沢江刺まで行き、駅からは超満員になった三ノ路線バスで藤原の郷へ、函館勢は、はつかりで盛岡に着き、待たせていた大型バスで藤原の郷へ。入口で合流、31名が勢揃いして入門。夕方5時半、須川温泉に到着。山の上の温泉ホテルだけあって、岩魚のさしみ、網焼き、笹竹の子等山の幸たっぷりの夕食、9時まで賑やかに宴を繰り広げました。記念撮影と校歌斉唱の後、ひとつの部屋に皆を詰め込み、二次会。一大イベントは山形に仕事で出かけていた辻君が運んだ最高のサクラソバ「さとうにしき」を味わうことが出来たことです。事前に情報が漏れていたこともあり、女性陣の最大の狙い目でした。

翌日は、6時起床、温泉に入り、6時50分から朝食を取り、いよいよ栗駒山の高層温泉散策、8時に勢ぞろい、記念写真を撮り、全員が揃って出発。元氣一杯の女性陣を先頭にして暫くは平坦な木道を歩き、いよいよ昭和湖への登り、厳しい場所は助け合いながら登る遷厩過ぎのおじさん、おばさんを若がえさせるもので、標高差300m程の登りでしたが、往復2時間30分程のとても楽しい思い出の多い山行となりました。

下山後、もう一度温泉に入り、汗を流した後、バスで山を下り、一関駅で次回を約して関東と函館に向かつて別れましたが、車中で今回の旅の喜びを嘔み締めながら、酒を飲み歓談していると、時間の経つのが早過ぎる位でした。

### 第63期・午末の会

小林嘉則 記

東京での同期会を始めて20年目、遷厩を迎える年代になってしまいました。昨年は卒業40周年という節目に当たり、母校に桜の植樹をするなど全国大会にしたため、東京では開かなかつたので、2年ぶりの顔合わせとなりました。

最近、幹事の怠慢で全国津々浦々まで案内を出さなくなり、過去返信の無い人や遠く来れない人は除外して約80名程に案内。連絡をもらった人はお仲間をお誘いして下さい、としたところ皆さん夫々確認があったようで、いつもより多くの集まりになり会場が狭く感じられました。

毎年恒例の7月七々の土曜日、



有楽町和食の五穀家に14時集合。今回は札幌から坪田君、函館の柏葉君、安達君達の常任幹事が勢ぞろい。17年振りの杉村君、10年の佐々木拓郎君、極め付き卒業以来40年振りは渡辺信英君。在校時ハンドボール部の主将だった彼は現在東北福祉大学の学部長をしており、マリナースの佐々木投手を育て、学生ゴルフ界では強力な選手育成にと体育振興の役割を担っている。東京での講演会を終えて駆けつけ参加を果たしてくれた。二次会はニュートキーヨーピアホール。二時間延長して21時まで入れ替わりで30名の大雑談会になる。北海道から参加の三人の宿泊が新宿のホテルという事で、有志で送りがてらの三次会が約2時間。最終電車に気にして散会する頃には、さすがに10時間の疲れがどつと来た感じだった。

### 第65期・函中三八会

菅原大作 記

函中三八会は、7月6日(土)、午後6時より、東京・墨田区の『第一ホテル両国』で行われた。

今年の会場は、平成12年開業のホテル。カラオケつき個室で、大変あずましかったが、カラオケはお休みして、もっぱら相互交流に終始した。

今回は、27人(男性23人、女性4人)が参加したが、北海道札幌市の田辺和彦氏、岩手県盛岡市・蛸崎広司氏、山形県酒田市・東樹亨氏、茨城県つくば市・高野晃氏、千葉県館山市・小田切清彦氏も出席した。参加者には、欠席者から届いた近況報告と、最新の住所録を配った。

午後6時開始予定だったが、なかなか揃わず、結局乾杯もなく始まった。毎年参加している言わば常連組にとっては一年振りの再会だったものの、卒業後およそ40年を経て初め



て参加した今井正利氏、久々参加の佐藤之彦、田島久教、谷口勝、吉沢隆雄氏などもいて、暫くは長い年月の間隙を埋める情報交換が続いた。なお、卒業アルバム顔写真をコピーして回覧したが、当時の顔と現在とを見比べながらお互いを確認する人も多かった。

その後、近況報告を兼ねたあいさつを行った。最初に、野球部で活躍し、函館の同期会でも中心的役割を果たされていた小林正氏が今年3月に急逝されたが、共に汗にまみれて練習した小林氏の思い出と葬儀の様子などを蛸崎氏に報告していただいた。共通の仲間を失ったことで、今後ともより一層相互に連絡を行うことを確認した。この後行っただ自己紹介を含めた近況報告では、報告することが多くて持ち時間をオーバーする人も多かった。

近況報告後も、小さなグループに別れて、恩師の思い出や授業中のエピソード、修学旅行や部活動などのほか、仕事や家族のことも話を話し合っていた。

午後8時30分過ぎ、記念撮影し、次回の再会を約束して閉会となった。しかし、なおも別れがたくおよそ20人が二次会へ。二次会でも時を過ぎるのも忘れて、つきない思い出を語り合った。

### 第68期・よいよい会

木戸正文 記

「よいよい会」を開催する日を毎年6月の第二土曜日と決めている。今年も昨年に引き続き中野サンクラブで開催した。W杯、ロシア戦の前日とあってサッカーの話でもあり

がり、日本料理を食べながらの近況報告と懇談が二次会のカラオケルームまで続いた。今回はちよつと少なめの16名であった。

胃を取った荒谷君が元気な顔を見せてくれ、次の週末スクワにサソリの交渉で出張すること。函館に居を移した奥野君が今年も出席し、函館で名曲喫茶を始めた帰山君の店が徐々に軌道に乗り始めたとの報告もあった。(ウオルフガング、東山2の5の8 電話〇一三八 三三三 一四四三)

今回出席できず近況報告を寄せてくれた皆のがきを回覧し、また最新の住所録を作成、参加者に配布した。

出席した皆さんは大河原、雨宮、児玉、塩田、麻田、吉野さん。荒谷、池端、奥野、及能、白崎、相馬、高橋、武内、淵沢君、初出席は池端幸夫君であった。

また元気で楽しい断を楽しみに再会を約束して三次会の居酒屋で散会とした。

### 第71期だより

加納 元雄 記

71期同期会は、6月22日(土)、ニユートーキョー本店「桃杏楼」にて、開催しました。

ニユートーキョーに勤務する相馬篤君のセツテイングにより、昨年からここを会場にしています。料理の美味さとサービスの良さは言うに及ばず、会場の広さ、交通の便地下鉄銀座・JR有楽町から至近)とも同期会に打って付けで、暫くはここが定例会場になりそうです。

当日は40人が参加、例年どおり

大変な盛り上がりとなりました。函館からも、函館同期会の中心メンバーである灰谷良一君、井上(現森崎)幹子さん、古川(現後藤)愛子さんが駆け付けてくれ、同期会の二つの拠点の相互交流も果たせました。また、仙台在住の小泉光君、福岡の佐野(現善)順子さんも来てくれました。佐野さんは、昨年に続いての出席です。

また、今年から、小泉君、函館からの三人組の他に、村瀬(現朝日)恵子さん、加藤素久君、川原敬貴君、小島正道君、橋元正君、藤田(現松本)悦子さんが新たに参加しました。

出席者全員が一言ずつ挨拶しましたがその内容は、実に様々です。「去年から変わったことは、『しゅうとめ』になったことです。」

「今年おじいちゃんになりました。孫は可愛いぞつ。」といった発言で年齢を再確認させられるのは避け難いことですが、一方、「会社の都合で出向になり、これまでと違って土・日の会合に出られるようになったのでよろしく。」勤め先が何時の間にかそっくり外資系の会社になってしまいました。」と言った、時代の厳しさを感じさせるものも多くありました。

しかし、「この日はやはり日常を離れ、高校時代と現在とを結びつける作業に、皆、時が経つのを忘れたようです。午後4時に会を始め、一次会をお開きにしたのが7時、その後ほとんどの人が二次会に流れて、10時頃に二次会も締めたのですが、その後更に三次会、四次会と続いて、明け方近くまで都内を徘徊したグ

ループもあったとか。皆がパワーを出し合い、お互いの元気を確認することが、日頃の活力の源になっているようです。

今年の同窓会東京支部大会は、この余勢を駆って、私達71期が企画することになりました。同期会に出た方も出られなかつた方も、10月18日(金)の同窓会大会には是非出席し、再会を喜び合つと共に、私達のパワーを他の期の人達にも分けて上げようではありませんか!

### 第72期だより

佐野 香苗 記

突然の同期会、しかも大々的には13年振り。幹事の渡部君が「やるか!」と言つてから3週間後には銀座に集結と言つ急展開。にも拘わらず35名が出席。3月16日

(土) sun-mi TAKAMATSU。予め予習資料として当日の出席予定者リストと欠席者のメッセージも送付される徹底ぶり。お陰でリストと当時のアルバムを見て予習ができました。

卒業以来初めて会う同期や、在学中は話した事がなかつた同期も皆一瞬、今を忘れて10代にタイムスリップしたかのような時間を過ごせました。懐かしさにひきずられ、二次会、三次会共に32名が参加し、銀座の夜が更けて散会となりました。

例年よりひと月早く開花した桜の元気に負けない勢いで我が同期の心に「郷愁」の花が満開に咲いていた様に思います。永久幹事の渡部君の行動力と同期を大切にしてくれる気持に感謝して、次回を楽しみに待ちたいと思います。

### 第74期だより

小林 隆康 記

去る6月15日土曜日に銀座で東京在住の同期会を初めて約17名が集まり開催しました。

東京の同窓会の皆様には「集まりの悪い期だな」と常々思われている、というよりは本当に集まりが悪いんです。でも昨年10月の同窓会に「卒業30年一つ前の年」と声をかけたら5名が集まり、それが今回の会のきっかけになりました。

30年ぶりにあった人や人生のうねりを何回も超えている人、人生それぞれだな、という感じでした。概して女性陣が華々しく(?)活躍している人が多く、男性陣の定



東京白楊だより (16)

年まであと10年内外という事など何のその、人生これからというバィタリティーを感じました。女性の時代ですね。

毎年、正月に函館にて細々と同期会を開催してましたが、「卒業30周年記念同期会」ということで8月16日(金)に函館国際ホテルにて盛大(だと思つのですが)に開催されます。当時の先生方にも声をかけておりますが、卒業生350数名のうち果たして何名が集まるか、楽しみです。

年齢的に働き盛りで、皆忙しくなかなか顔を合わせられない現在ですが、40周年の60前後になれば、集まりやすいのでしょうか。皆元気であればの話ですが……。

卒業30年、先輩諸氏から見るとまだまだ、と思われられるかもしれませんが、感慨ひとしおの「プレ&お初東京同期会」でした。





平成13年9月以降の会費の  
振替用紙のメッセージから

# 会員短信

メッセージ

今井 清(40期・昭13年卒)  
東京白楊だより第24号を興味深  
く楽しく拝見いたしました。あり  
がとうございました。

佐々木忠郎(41期・昭14年卒)  
短歌一首、ニコライの鐘の音き  
けば古里のガンガン寺のむかし懐  
かし(新アララギ会員)

佐々木金一(42期・昭15年卒)  
会合には残念ながら出席出来ま  
せんで皆様によりしくお願い申  
上げます。団地の周辺を一日二回  
歩いていますが、手術後の回復に  
なるかどうか?

神山 茂郎(43期・昭16年卒)  
色々とお苦勞さん。10月27日必  
ず出席します。



寺井 章(43期・昭16年卒)  
同期の井筒吉彦氏には大変お世  
話になっていきます。東京支部大会  
には欠席しますが、ご盛會を祈り  
上げます。

高倉 隆(44期・昭17年卒)  
会の隆盛を祈念致しております。

村上 國男(45期・昭18年卒)  
小生の随想会報に載せていただ  
き感謝します。今後共よろしくお  
願い申上げます。

高村 亮一(51期・昭23・24年卒)  
七年前軽い脳梗塞、外観的には  
健常者と変らず、でも朝のロレッ  
の不便さに、最近は何膝の痛みで  
整形医通いです。猛暑の中、気持  
丈はなえぬ様にと思っています。

宮 俊夫(52期・昭25年卒)  
e-mailアドレス変更のお知らせ  
toshiyo@openbi.net



阿部 彰子(53期・昭26年卒)  
東京白楊だより送っていただき  
ましてありがとうございます。

池田 正文(53期・昭26年卒)  
10月の同窓会に出席が可か不可  
か。未だ個展の期日が未定の為決  
められません。可となるよう期待  
しております。

入江 宏子(54期・昭27年卒)  
お世話さまです。

栗崎 健一(55期・昭28年卒)  
繰越金の有効な用途が見つから  
ないのなら、是非会費の値下げを  
検討して下さい(一、〇〇〇円?)。  
会員数の増加につながると思いま  
す。

山口 ヒロ(55期・昭28年卒)  
11月から秋田市へ移転いたしま  
す。長い間お世話になりました。

桐谷 芳和(56期・昭29年卒)  
白楊だより24号ありがとうございます

鈴木 克洋(56期・昭29年卒)  
今年度で退会しますのでよろし  
く。

澤田 経子(56期・昭29年卒)  
「生涯青春」を旗印にと年齢を  
気にしないことになっていますが、  
ヨイショ……、ドッコイショを気  
がつくと言っています。これはい  
けないと反省頻りです。



兼平 亘(57期・昭30年卒)  
大変長い間御無沙汰致しており  
ます。毎回「東京白楊だより」を  
懐かしく読ませていただいております

伊藤 征子(59期・昭32年卒)  
参加する毎に先輩、後輩との顔  
馴染みも増し、参加することへの  
意義も深まりつつありました。今  
回は予定が重なり欠席となり残念  
です。

岸本 文子(59期・昭32年卒)  
お手数をかけ致します。

伊藤 紀子(60期・昭33年卒)  
東京白楊だよりが届くと、ああ  
又一年たつたのだなと感じるよう  
になりました。同窓会には、3度参  
加させていただきましたが、馬齢を  
重ねて一人で二人分の空間を占領  
するようになり、会場をせまくして  
はと、最近では遠慮しております。

鎌形 寛子(62期・昭35年卒)  
会報等楽しみに拝見させて頂い  
ております。

高橋 範彦(62期・昭35年卒)  
今後とも宜敷くお願い致します。

藤倉 信子(62期・昭35年卒)  
白楊だよりありがとうございます  
す。函館在住30年、その後釧路2  
回、千歳、千葉2回、茨城、大阪、  
香川、沖縄で丁度30年となりまし  
た。

佐藤 延子(63期・昭36年卒)  
岐阜県人となって30年になり  
函館は、はるかなる故郷となりま  
した。職業柄が男女共同参画会社  
を推進する地方自治体(町行政)  
のお手伝いをする機会が多くなり  
ました。

浜岡興一郎(63期・昭36年卒)  
仕事の都合でなかなか出席出来  
ず残念。

三谷 陽子(63期・昭36年卒)  
特集記事、函館と啄木「塩野崎宏  
先生大変興味深く読みました。『啄  
木』について又少し知る事が出来、  
心豊かになった思いで、遙か函館の  
風景と重ね合わせ、思い巡らしてお  
ります。有難うございました。

大越 陸夫(64期・昭37年卒)  
いつもお世話になりました。あり  
がとうございます。



伊藤 征子(59期・昭32年卒)  
参加する毎に先輩、後輩との顔  
馴染みも増し、参加することへの  
意義も深まりつつありました。今  
回は予定が重なり欠席となり残念  
です。

田中 公子(64期・昭37年卒)  
「佐藤宣直君と今は亡き久美さんのこと」は温かいまなざしで応援し続けた大越さんならではの文で、万感胸に迫るものがあります。毎時間雑巾がけをした旧体育館、腕くみをした瀧江先生など、40年前のことがまるで昨日のことのように思い出されました。



池端 幸夫(68期・昭41年卒)  
仙台に転動となりました。連絡は留守宅の松戸でも仙台でも可です。  
重松 健二(68期・昭41年卒)  
昨年なくなった同期の芹田吉重君の住所分かる方いたらお知らせ下さい。(供花させて頂きたいので。)  
細野 ナツ(68期・昭41年卒)  
毎年68期の同窓会へ出席し、楽しい時間を過ごしています。会うとみんな高校時代へ戻り、年令を忘れ語り歌っています。同期ついでですね!



岩切 省三(69期・昭42年卒)  
お役目御苦労様です。

斉藤 裕子(69期・昭42年卒)  
久しぶりに同窓会に参加したいと思えます。今年バスケット部70周年の行事も盛大でしたので、是非共同窓会も盛大になる事を祈ります。

川村 哲雄(71期・昭44年卒)  
第71期同期会を10月13日(土)ニュートキー本店7F「桃杏楼」で水江先生を囲み、仙台、福岡からの参加者を含み総勢48名の参加を得て、午後4時から開催しました。東芝ビル地下1F「あさ香」へ場所を変えての午後7時から2次会には42名が参加、そして午後10時からの3次会には水江先生を含み15名が残り、延々8時間近くの大宴会となりました。  
古賀 純子(71期・昭44年卒)  
私の姉も中部の卒業生です(68期・昭和41年卒)。稲田悦子(旧姓丸岡)東京都世田谷区野毛3-18-2 206。来年は姉妹で同窓会に出席したいと思えます。

殿谷 道子(71期・昭44年卒)  
今年も同期会参加できなくて残念です。

中村 興治(71期・昭44年卒)  
我が同期は人生50年を超え、ガゼン同期会に燃え上がっています。



佐野 香苗(72期・昭45年卒)  
『良き出会い』を大切に、色々な事を学びながら楽しくお付き合いをさせて頂きます。末永くお願い致します。

清水 真(82期・昭55年卒)  
母校の発展をお祈り申し上げます。  
吉田 亮(89期・昭62年卒)  
現在ソニー株式会社勤務です。中部在籍中はハンドボール部に所属しておりました。



## 白楊ヶ丘同窓会東京支部の登録会員数は3778名

現在東京支部に住所登録されている会員数は3778名になります。年齢別では旧制中学(昭和23年3月卒)最後の卒業生である51期生の72歳以上の方は517名(13.7%)を数え、80歳代196名、90歳を超えている先輩が33名おられます(現在の最高齢者は大正6年卒、19期生の渡辺忠雄さんで104歳です)。60歳代956名(25.3%)、50歳代1151名(30.5%)でこの年齢層が同窓会の半分以上を占める構成となっております。年会費納入状況は、平成13年度納入者数50~60歳代が538名(66.3%)となっており、この年齢層が同窓会活動費の半分以上を支えていることとなります。ただし、50歳代(64~73期)に限った場合の納入率は19%(217名)に過ぎず、同窓会についての関心度が今ひとつと思われます。その点では旧制中学の方々の母校意識は今なお強いものがあると、納入率39%という数字で理解されることです。同窓会の在り方については個々に感じるものではありませんが、故郷函館を懐かしみ、母校に想いを馳せ、同窓の先輩後輩の誼を育みとして、同窓会の活動が意義あるものと思う次第です。

## 評議員会報告

平成13年度の評議員会が4月25日、32名の出席で開かれた。

平成13年度事業及び収支決算の報告と監査報告に続き、14年度の事業計画案・予算案の説明があり、承認された。次に会報に関しての説明並びに、寄稿の依頼、第26回親睦大会についての提案、そして新役員の紹介と続いた。親睦大会は、企画の発展を目指し、単独の期を幹事として

て独自の企画で新しい風を吹き込む試みを図ることとなり、今年は71期生が名乗りを上げてくれた。乞うご期待!

昨年再会されたミニ評議員会の成果で、評議員・理事が増員され、その勢いで親睦大会も新規巻き直しの機会が得られたもので、今後の活躍が期待される。同時に80期代・90期代からも是非たくさんの評議員が出現してくれることを期待したい。

・副支部長(総務担当)  
梅田やよい(69期)記

## 平成13年度東京支部会計決算書

### 収入の部

|            |             |
|------------|-------------|
| 前年度繰越金     | ¥6,954,832  |
| 総会費(170名)増 | ¥1,355,000  |
| 年会費(810名)減 | ¥2,430,000  |
| 利息収入       | ¥58,849     |
| 雑収入        | ¥60,000     |
| 計          | ¥10,858,681 |

### 支出の部

|       |             |
|-------|-------------|
| 総会関連費 | ¥1,709,753  |
| 会報関連費 | ¥897,750    |
| 事務費   | ¥673,115    |
| 会議費   | ¥365,578    |
| その他   | ¥759,360    |
| 次年度繰越 | ¥6,453,125  |
| 計     | ¥10,858,681 |

佐渡谷安津雄油絵展 (64期・函館在住)



◇2002年9月27日(金)  
～10月8日(火)  
◇東京・銀座/歌舞伎座横  
ギャラリーカンティード  
中央区銀座4-13-15  
成和銀座ビル2F  
◇TEL: 03-3574-8591

安藤牧子植物画展 石狩花紀行

(69期・石狩在住)



◇2002年10月8日(火)  
～10月13日(日)  
◇東京・銀座教会  
有楽町交差点近く  
ギャラリー・アガパー  
◇中央区銀座4-2-1  
◇TEL: 03-3561-2910

札幌支部総会および懇親会に出席して

札幌支部第22回総会・懇親会は平成14年6月21日札幌ア  
スペンホテルで89名が参加して開催された。総会に先立ち  
20余名の物故者へ黙祷をささげて、高島支部長が議長をつ  
とめて総会は滞りなく終わった。続いて41期の工藤欣弥氏の  
「夜明けの美術館」と題しての講演があった。昭和42年に北  
海道に最初の美術館が出来た頃は粗末な物であったなど  
色々苦勞なさって立派な物がいくつも出来たエピソード  
を話してくださった。36期の杉田正氏の乾杯の音頭で懇親  
会に入り久しぶりに会う同窓生との会話がはずんだ。若い  
期の人達は校歌を歌い先輩達は同窓会歌を斉唱して閉会と  
なった。  
杉田 博子(54期)

同窓生出版のお知らせ

42期(昭和15年卒)荒木勇氏はこの程「私本シベリア抑  
留」を上梓された。昭和20年3月応召エト口フ島防衛の任  
に当たる。8月終戦と共にシベリアに抑留され24年11月復  
員。ひよんなことからロシア語通訳をされ、初め心細く、  
後に逞しい通訳となる4年余りの体験記。但し登場日本人  
は仮名である。大正生まれの方必読の書として紹介する。

白楊ヶ丘同窓会東京支部会員の  
ゴルフ愛好者のコンペ「ポプラ会」  
は、今年で開始以来9年を経過し  
た。本年度も11月と5月の2回開  
催された。

第17回は、平成13年11月9日、  
埼玉県の浦和ゴルフ倶楽部で、9  
組34人とこれまでのコンペで最も  
多くの方々が参加して行われた。  
スタート当初は小雨だったもの  
の、ラウンド半ばから本降りとな  
り、終日傘を差してのプレーとな  
った。

成績は、コンペ常任幹事の小林嘉  
則氏(63期)が平成10年の第10回以  
来久しぶりの優勝、44、44でベスグ  
ロも同時受賞した。第二位は初参  
加の61期・佐々木住明氏、第三位

は同じく初参加の61期・田中辰雄  
氏。なお、女性のベスグロは札幌か  
ら参加された64期の河原木和子さ  
んが44、52で獲得された。

第18回は、平成14年5月17日、  
浦和ゴルフ倶楽部で25人が参加し  
て行われた。天気予報は、降水確  
率が50%。今にも雨が落ちてきそ  
うな曇り空の下、雨が降り出す前  
に終えようと気ぜわしいラウンド  
が行われた。幸い、プレー後の表  
彰式になってから窓の外が土砂降  
りになるという幸運もあって楽し  
いプレーが続けられた。

成績は、60期の松田栄美子さん  
がコンペ史上初めての女性優勝者に  
なった。スコアは47、46で女性のベス  
グロも獲得した。第二位は64期の  
鈴木三則氏が42、43のベスグ  
ロで入賞、第三位は61期の  
菊池紀邦氏。

なお、ポプラ会コンペで  
は、毎回の優勝者に、プロ  
棋士が対戦中に使用する扇  
子に二上前支部長ご自身が  
揮毫して「二上賞」として  
進呈されているが、この扇  
子が第17回は準優勝の佐々  
木氏、第18回は同じく準優  
勝の鈴木氏に、それぞれ贈  
られた。

白楊ヶ丘同窓会の親睦コ  
ンペ・ポプラ会とは別に、  
平成9年より、函館西高校  
と東高校の関東地区の同窓  
会支部とゴルフを通じて相  
互交流を図ることを目的に  
コンペ「函館巴会」が開催  
されているが、この第6回



コンペが、平成14年4月11日に東  
京都多摩市の桜ヶ丘カンツリー倶  
楽部で西校14人、東校13人、中部  
13人の計40人が参加して行われ  
た。

成績は、個人では西校の徳永豊  
吉氏が、団体は西校が昨年に引き  
続き連続優勝した。中部は、菅原  
大作(65期)が五位に入賞したの  
が最高という結果になり、団体は  
最下位だった。

なお、次回(第19回)のポプラ  
会コンペは、11月7日(木)の開  
催を予定しております。詳細が決  
定し次第改めて案内状をお送り致  
します。案内状をご希望の方は、  
FAXにて、住所、氏名、卒  
業期を左記までご連絡下さい。

ポプラ会申込み先

FAX: 03 3424 6854  
63期・小林嘉則 宛

# 第26回親睦大会

2002年10月18日(金)午後6時～

「呼び戻そう、青春の熱気！ 白楊祭の感激をもう一度！」

開場：6時15分 懇親会：午後6時45分～

今年の白楊ヶ丘同窓会東京支部親睦大会は、例年とは趣向を変え、「呼び戻そう、青春の熱気！ 白楊祭の感激をもう一度！」というテーマで、何時もよりは多少にぎやかな会にするつもりになりました。

「白楊祭」は、戦後1950年代から行われているようですが、その内容は、時代と共に変遷を遂げております。今回の大会を企画した71期生（昭和44年卒）の時代の「白楊祭」は、バンド演奏と仮装パレードに彩られる、熱狂のひとつとまでした。普段は勉学一筋だったり自分の世界にこもっている生徒も、この時ばかりは級友達と時間を忘れて一緒に準備作業に取組み、夜遅くまで祭りを楽しんだものです。

今回の大会では、自分たちでバンド演奏をしたり仮装の山車を作ることには出来ませんが、当時の雰囲気や多少なりともよみがえらせようと、首都圏で活躍しているジャズバンド「Gold Winds」を招き、当時流行していた曲やスタンダードナンバーを中心に演奏してもらいます。また会場の壁には各年代の白楊祭の写真を展示し、雰囲気盛り上げる予定です。

暗い話題ばかりが目につく世相ですが、この日はやはり「希望にあふれた年代」に返り、東京支部が文字どおり「活力ある集い」となって、「出席の皆さんに時代の閉塞感を吹き飛ばして戴きたい」と願っております。

## 函館情報

### ○函館市東京事務所

事務所は、紀尾井町プリンス通り文芸春秋の並びで、麹町会館の向かいにあり、中央官庁や関係団体との連絡調整、企業誘致、リターン相談、観光案内、市政に関する情報収集などの業務を行っています。スタッフは所長以下三名です。

所長 酒井 哲美  
副所長 廣部 卓也

東京都千代田区紀尾井町3 29  
紀尾井町山本第2ビル2階

電話：03 32661 0072  
FAX：03 32661 0339

### ○お知らせ

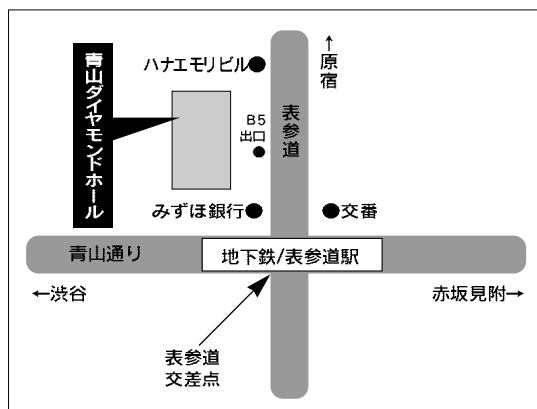
今年には市制施行80周年  
函館市は近代日本最初の国際貿易港として海外に門戸を開き、国内でもいち早く西洋文化を取り入れるなど、歴史に培われた文化や豊富な人文資源など数多くの優れた特性をいかして、北海道の行政、経済、文化

の中心として発展してきました。大正11年(1922年)、「函館区」から「函館市」となり、札幌、小樽、旭川、室蘭、釧路とともに北海道で初めて市制を施行し、今年80周年を迎えました。この記念すべき年にあたり、去る8月1日、函館市民会館大ホールで一般市民のほか海外姉妹都市・友好都市代表団も含め約1千2百人が出席し記念式典が開催されました。

井上市長は、先人の御苦勞を偲び、このうえは時代の二つに対応した新しいまちづくりに努めたい。地方を取り巻く状況には厳しいものがあるが、広域的な連携を深め、海外姉妹都市・友好都市との国際交流を一層充実させ、地方分権に対応したグラウンドデザインを描きながら市勢の更なる発展を図る。と式辞を述べ、様々な記念事業を実施する中で、今年も「ふれあい」とやさしさに包まれた世界都市へと確かな歩みを続けております。

○最近の主な動向  
◆函館空港ターミナルビル増設案が本格化  
3階建延べ約2万4千平方m

## 青山ダイヤモンドホール ご案内



### ◆青山ダイヤモンドホール◆

〒107-0061 東京都港区北青山3-6-8  
電話：03-5467-2111

- 地下鉄/銀座線・半蔵門線・千代田線表参道駅B5出口直結
- JR山手線/原宿駅下車・徒歩10分
- ※駐車場(有料)には限りがございますので、なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

### 東京白楊だより 25号

- 発行 白楊ヶ丘同窓会東京支部
- 発行人 杉田 博子 (54期)
- 編集責任 小林 嘉則 (63期)
- 発行日 平成14年9月1日

### 【東京事務所】

〒160-0022  
東京都新宿区新宿  
TEL: 03-3352-6281  
FAX: 03-3341-5048

年間利用客3百万人対応にスケールアップ  
3階飲食店等スペースは5倍の3千平方m  
○函館中央図書館の建設基本計画  
14年度設計プロポーザルコンペ実施  
9月公開ヒアリング、年度内基本設計  
15年度実施設計 16/17年度建設工事  
17年12月開館予定  
○国際水産・海洋都市構想策定の取り組み  
函館は、港と海とともに幾多の試練の時代を経験し発展してきた。海を中心として将来のデザインを描いてまちづくりを進めていくこととすることで、6月函館海洋科学創成研究所を立ち上げ、「国際水産・海洋都市構想」策定の取り組みを始めました。  
また、庁内に関連事業推進に向け国際貿易・港湾振興プロジェクト推進室を設けた。  
○川さいかPARTの建物が解体跡地利用は未定だが、中心市街地の活性化の力ギとなる場所で注目されている。